

みずほCustomer Desk Report 2018/02/21号 (As of 2018/02/20)

国際為替部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】			公示仲値		106.80
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	106.72	1.2399	132.34	1.3992	0.7909
SYD-NY High	107.38	1.2411	132.51	1.4025	0.7934
SYD-NY Low	106.56	1.2319	132.12	1.3932	0.7874
NY 5:00 PM	107.33	1.2337	132.40	1.3995	0.7885
NY DOW	24,964.75	▲ 254.63	日本2年債	-0.1500	1.00bp
NASDAQ	7,234.31	▲ 5.16	日本10年債	0.0600	0.00bp
S&P	2,716.26	▲ 15.96	米国2年債	2.2208	2.93bp
日経平均	21,925.10	▲ 224.11	米国5年債	2.6455	1.89bp
TOPIX	1,762.45	▲ 12.70	米国10年債	2.8905	1.83bp
ソコ日経先物	21,880	▲ 20.00	独10年債	0.7335	0.20bp
ロンドンFT	7,246.77	▲ 0.89	英10年債	1.5850	▲ 1.70bp
DAX	12,487.90	102.30	豪10年債	2.8835	1.50bp
ハンセン指数	30,873.63	▲ 241.80	USDJPY 1M Vol	9.18	▲ 0.23%
上海総合	#N/A	#N/A	USDJPY 3M Vol	9.05	▲ 0.23%
NY金	1,331.20	▲ 25.00	USDJPY 6M Vol	8.95	▲ 0.23%
WTI	61.79	0.24	USDJPY 1M 25RR	-1.43	Yen Call Over
CRB指数	193.67	0.09	EURJPY 3M Vol	9.28	▲ 0.13%
ドルインデックス	89.72	0.62	EURJPY 6M Vol	9.20	▲ 0.25%

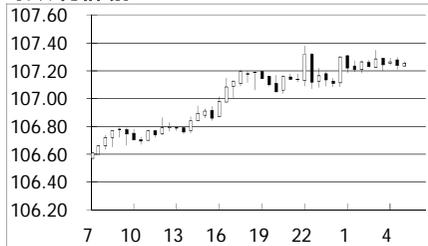
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
2月20日	19:00	独 ZEW景気期待指数	2月 17.8	16.0
2月21日	0:00	欧 消費者信頼感・1次速報値	2月 0.1	1.0

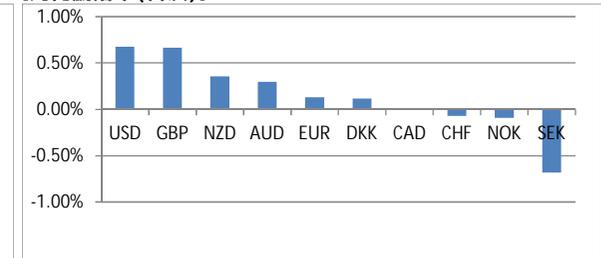
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
2月21日	17:30	独 マークイットPMI(製造業/サービス業/コンポジット)	2月 60.5/57.0/58.5	61.1/57.3/59.0
	18:00	欧 マークイットPMI(製造業/サービス業/コンポジット)	2月 59.2/57.6/58.4	59.6/58.0/58.8
	18:30	英 ILO失業率(3ヶ月)	12月 4.3%	4.3%
	18:30	英 週平均賃金3ヶ月(前年比)	12月 2.5%	2.5%
	21:00	米 MBA住宅ローン申請指数	2月 -	-4.1%
2月22日	23:45	米 マークイットPMI(製造業/サービス業/コンポジット)	2月 55.5/53.7/-	55.5/53.3/53.8
	0:00	米 中古住宅販売件数	1月 5.60M	5.57M
	4:00	米 FOMC議事要旨	-	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	106.80-107.70	1.2290-1.2390	131.90-132.80

【マーケットインプレッション】

昨日海外時間のドル円はドル買い優勢の展開となった。アジア時間のドル高・円安の流れを引き継ぎ、ドルは主要通貨に対して強さ、ドル円は107円台を回復した。本日のドル円はレンジ内で推移すると予想。本日に発表される1月のFOMC議事要旨の内容について注目が集まっており、発表前に積極的な取引を控え、様子見ムードが強まるだろう。加え、中国は本日まで旧正月休暇のため、引き続き市場参加者が限られる中、本日のドル円は107円台前半で方向感ない推移になりそうだ。

東京	<p>アジア時間、日中安値106.56をつける場面も見られたが、じりじりと底堅く推移し、106.72レベルで東京時間オープン。五・十日であることから輸入企業によるドル買い円売りが意識される中、ドル円は仲値にかけて106.79まで上昇。その後、安寄りしていた日経平均株価が下げ幅を拡大させる中、ドル円は106.67まで反落するも、この水準では下げ渋り、同水準で推移。後場に入ると日経平均株価が下げ幅を縮小、更には米10年債金利が上昇するとドル円は底堅く推移。東京時間高値106.95まで上昇し、106.90レベルでクロスした。また、豪中銀から議事要旨が公表された。「インフレ加速は漸進的なものにとどまる見通し」との内容が示されたもの目立った反応にはつながらず、豪ドルは対ドルで0.79台前半から0.78台後半での小幅な値動きとなった。(東京15:30)</p>
ロンドン	<p>ロンドン市場のドル円は106.90レベルでオープン。安倍首相が「消費増税による駆け込み需要と反動減などの経済のぶれをコントロールする必要性がある」と述べたことで、財政出動期待が浮上。107.21まで上昇し、107.14レベルでNYに渡った。ポンドドルは1.3979レベルでオープン。欧州議会が特別な英欧連合協定の決議文を準備しているとのヘッドラインが伝わった他、デービスEU離脱担当が「今週木曜日に英政府が目指す離脱後のスタンスを示す」と表明。英EU離脱を巡る交渉が進展するとの見方が浮上し、1.4015まで買われ、1.3993レベルでNYに渡った。(ロンドン・ルアー 00531 444 179 山本)</p>
ニューヨーク	<p>今週は21日のFOMC議事要旨発表以外は米国では主要な経済指標の発表が予定されていない中、主要通貨に対してドル高・円安が強まったことから、ドル円は海外市場で107.21まで戻し、107.14レベルでNYオープン。朝方は海外市場の流れを引き継ぎドル買いに107.38まで戻すが、このレベルでは売り意欲も強く、107.07まで反落する。その後は狭いレンジでの推移が続く。今週は、この日から2.57年の2580億ドルの米国債入札を控えており、午後発表された2年債入札では最高落札利回りが2.255%と2008年8月以来の水準まで上昇したことが判明したが、為替市場のドル円の反応は限定的となった。午後は新規材料に掛ける中、狭いレンジでの推移が続き、107.33レベルでクロスした。一方、先週金曜に1.25割れで週を終えたことが重石となり、上値の重いユーロドルは、EUがUKに対して単一市場にアクセスできることを認めるだろうとの関係者の話も伝わり、ユーロポンドが下落する動きに1.2333まで下落し、1.2346レベルでNYオープン。朝方は、海外市場の流れを引き継ぎ1.2319まで下落するが、一旦ドル売りが優勢となり、1.2361まで戻す。その後は新規材料に掛ける中、狭いレンジでの推移が続き、1.2337レベルでクロスした。(NY井上)</p>

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

担当: 田村 森谷